

TOKYO FUTURE
東京未来
ビジョン
懇談会通信

【出席者】※敬称略、五十音順

小池百合子(座長)

青木亮輔

太田雄貴

菊地裕介

高校生内閣

高橋みなみ

田根剛

蜷川美花

パッキン

メイミ

モハメド・オマル・アブディン

伊勢谷友介

落合陽一

くわばたりえ

宿輪理紗

田口亜希

西田圭志

長谷部健

松澤香

第 2 回

2017.4.21

東京都

発行：政策企画局計画部

この懇談会は、都における政策の推進や政策形成等に新たな発想を取り入れるため、各界の第一線で活躍している新進気鋭の若手の方々と意見交換を行うことを目的に設置されました。

※ 画像をクリックすると動画が見られます

松澤香氏のプレゼンテーション

「出産したら働けない」、「保育園に入ればキャリアを諦めずに済んだのに」をなくす「タラレバ0社会」実現を目指します。社会・制度による制約をなくし、個人が自分の生き方を自己決定できる社会の実現には、政治に対する多様な視点、特に女性の視点の反映が不可欠です。社会の在り方に関する意思決定が、男女の対話により行われていくための方策の一例として、男女ペア立候補制を提案します。



メイミ氏のプレゼンテーション

社会全体が障害や認知症、介護を当たり前を受け入れ、お互いが助け合える優しい社会になってほしいです。介護に対する人の意識の向上が必要です。2025年に5人に1人が認知症、介護士が3万6千人も不足します。今後の取組として、介護士のイメージ向上やコミュニケーションスキルの学びを提案します。例えば「介護」の言い方を変える、一般の方も参加できる介護コンテスト等はいかがでしょうか。



くわばたりえ氏のプレゼンテーション

ママ友会を通じて感じた「孤独な育児」をなくし、「育児しやすい東京・日本に！」の実現を提案します。例えば、育児の大変さを知ってもらうため、中高生への育児授業の実施や、パパの100%時短育児休暇の推進、全ての子供が保育園を利用できる皆が育児できる世の中が当たり前になること、を実現したいと思います。



日本では政治活動は非常に煙たがられるが、草の根レベルでの女性の政治活動が必要ではないか。(アブディン氏)

多摩のエリアは生活の場と職場が近い。老人ホームも近くにある。環境が変わらないという意味で、多摩のエリアのすごい可能性を感じる。(青木氏)

出席者の発言

ママになって子育てをする修練期間で身についたことに対して、社会が還元してくれなかったり、それを社会にアピールする場がないということが問題。(落合氏)

ママの日、パパの日のような、生活に寄り添う休日をもっと作ってはどうか。(高橋氏)